

英語科

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00055815

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



英 語 科

上野 郁子

田中 里美

渡村のりこ

研究協力者 滝沢 雄一（金沢大学）

1. 伝統文化教育を進めるに当たって

英語科では、昨年度より伝統文化教育を通して、「グローバル人材の育成」（要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力 要素Ⅱ：主体性・積極性，チャレンジ精神，協調性・柔軟性，責任感・使命感 要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ）を目指す学校研究と合わせ、英語科として生徒に身に付けさせたい力を、発達段階・学年ごとに設定し（1年生：自分のことを発信する力，2年生：根拠を明らかにして自分の意見を述べる力，3年生：議論する力），それらを育成するための実践研究を行ってきた。以下は昨年度の実践である。

- | |
|--|
| <p>1年生：日頃の授業で身近なことについて即興での対話を継続することで、英語でのコミュニケーション能力（要素Ⅰ）を培う。世界の多様な文化（衣食住など）を幅広く理解して（要素Ⅲ），対話の場面を想像して困難な状況でも主体的に乗り越える力（要素Ⅱ）を養う。</p> <p>2年生：1年次から意識してきたコミュニケーション能力（要素Ⅰ）をさらに強化し，語学力を高めながら，話題の充実を図る。相手の立場を考えながら（異文化理解），自分の考えや気持ちを明確に述べ，身の回りの出来事を十分に理解した上で説明する力（要素Ⅲ）の育成を目指す。</p> <p>3年生：1，2年次で取得した英語の知識や表現，コミュニケーション能力を基盤として，相手の意図や考えを的確に理解し，論理的に説明したり，反論・説得したりできる能力（要素Ⅰ）を身につけさせ，積極的に日本の伝統や文化を世界に発信する使命感や責任感（要素Ⅱ）を養う。</p> |
|--|

新学習指導要領では，外国語科の目標を「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のように育成することを目指す。」としている。

今年度は，上記の目標を念頭に置き，実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識と技能を身に付けることはもちろん，グローバル化が進む社会で，未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指した授業実践を行ってきた。コミュニケーションを行う「目的や場面，状況など」を意識し，互いの考えを伝え合ったり，多様な考えを理解したりする力を育てるため，3学年共通して，発達段階に応じた即興対話活動を帯活動として取り組んでいる。また，単元ごとに，内容的にまとまりのある文章を書いて，自分の考えを整理し，表現する活動も行っている。

本校英語科では，教科で身に付けたい力を第一に考えながら，伝統文化教育を通して付けたい資質能力の育成を図っていきたいと考えている。そのため，適切な教材や題材を選定しながら，伝統文化教育を進めていきたい。また，グローバル化が進む社会の中で，自らの国や地域の伝統や文化

についての理解を深め、尊重する態度を身に付けることがますます重要になっていることから、連携校であるスウェーデン・ホーラベックス校の同世代の生徒との交流を通して、スウェーデンの文化や伝統、生活習慣、学校制度について学んだり、日本の歴史・文化等の情報や自分の考えなどを積極的に発信する機会を持たせている。広い視野を持ち、外国語の背景にある文化を理解し、尊重することが伝統文化教育につながると考えている。

2. 資質・能力の育成に当たって

(1) 学校全体として育成する資質・能力について

- ① 日本の伝統や文化に関する理解
- ② 伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度
- ③ 文化の伝承・創造への主体性など

昨年度は伝統文化教育を通して「グローバル人材の要素Ⅰ～Ⅲ」の育成を目指し、実践研究を行ってきたが、今年度は、その3つの要素を上記の①～③と捉え直して、研究を進めることとした。

要素Ⅰ 語学力・コミュニケーション能力 ⇒ 資質・能力②

要素Ⅱ 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感 ⇒ 資質・能力③

要素Ⅲ 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー ⇒ 資質・能力①

また、新学習指導要領（外国語編）の教材選定の観点には、次のように示されている。

「伝統文化」とは、昔から伝えられてきた風習・制度・思想・技術・芸術などを示している。国際社会で活躍する日本人の育成を図る上で、外国の伝統文化について知ることは、幅広い国際的な視野を身に付ける観点からも大切なことである。また同時に、自国の伝統文化について外国の人々に発信できる素地を培うことも必要であり、そのために適切な題材を選択することが求められる。

そこで、本校英語科では、①～③の資質・能力の育成に当たっては、生徒の発達段階や興味・関心に応じた教材や題材を適切に取り扱いながら、教科で付けたい力を育成できる授業を行っていくこととした。

(2) 関連・連携の考えられる教科等について

新学習指導要領では、伝統や文化に関する教育の充実、外国語教育の充実などが改善事項として取り上げられている。さらに、教科等を横断するカリキュラムの重要性や必要性も示されている。上記を受けて、英語科では、他教科で扱っている教材を意識し、教材の「つながり」を考えながら指導することで、教科等を超えた知識の総合化が図られ、それらを場面や内容に合った英語を使って発信することで生徒の理解がより深まると考えている。

他教科で学んだ知識を基に、深く思考しながら英語で文章を読んだり書いたりすることで、より豊かに英語で表現できるような指導をしていきたい。その一方、英語科で学んだ題材が他教科で学ぶ際の刺激となり、他教科での関心・意欲・態度の向上につながるような指導も心がけたい。生徒がこれらの教科間のつながりを感じた際に、英語科はもちろんすべての教科を学ぶ意欲や学ぶ楽しさが生まれると考える。関連の深い教科等を中心に、教科等を横断して知識・技能を伝えるとともに、生徒たちが考えたり、実践しようとしたりする態度の育成を目指していく。

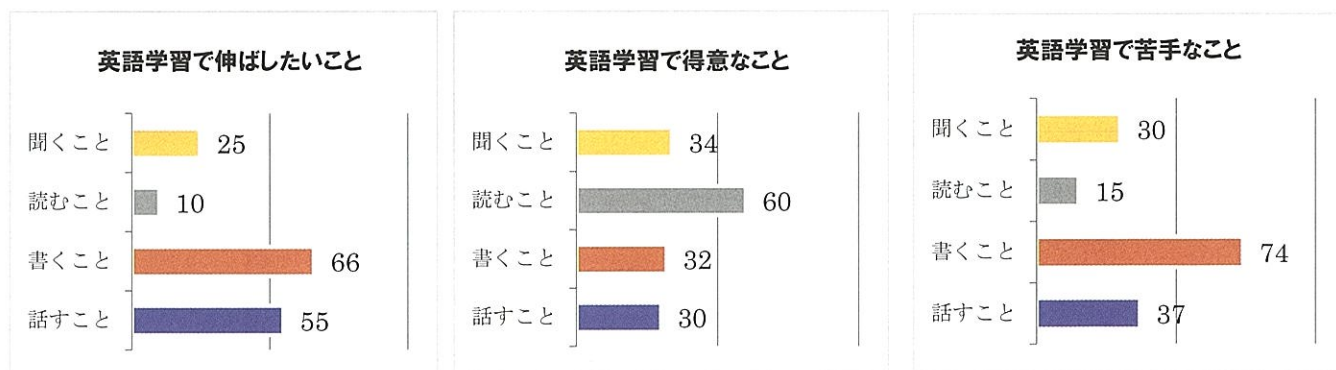
以下は各教科等との関連・連携が考えられる題材である。

学年	Program	題 材	関係・連携が考えられる教科等
1 年	4	リサイクル活動	技術・家庭科（技術分野）「設計」 技術・家庭科（家庭分野）「食生活と自立」 理科「身のまわりの物質」
	5	国際フードフェスティバル	技術・家庭科（家庭分野）「食生活と自立」 社会科「世界各地の人々の生活と環境」
	9	A New Year's Visit	技術・家庭科（家庭分野）「食生活と自立」 社会科「日本の年中行事」
	1 1	Grandma Baba and Her Friends on a Sleigh	総合的な学習の時間「シルエット劇」
2 年	My Project 4	スキット作りを楽しもう	社会科「世界から見た日本の気候」 技術・家庭科（家庭分野）「郷土料理をつくろう」
	9	A Video Project	保健体育科「球技ネット型テニス」 音楽科「混成合唱を味わおう」
	1 1	Yui—To Share Is to Live.	社会科「中部地方」
3 年	1	A History of Vegetables	技術・家庭科（家庭分野）「地域の食材と食文化」 理科「つながる生命」
	2	Volcanoes in Japan	社会科「世界から見た日本のすがた」 理科「生きている地球」
	My Project 8	日本文化を紹介しよう	社会科「私たちの生活と文化」 音楽科「日本の伝統音楽」保健体育科「武道」

3. 成果と課題

（1）第1学年の成果と課題

新学習指導要領外国語科改定に当たって、これまでの課題として、「外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が適切に行われていないことや「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動が十分ではないこと、読んだことについて意見を述べ合うなど、複数の領域を統合した言語活動が十分に行われていないことなどの課題がある。また、生徒の英語力の面では、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現することなどに課題がある。」と挙げられている。本校1学年生徒の英語学習意識調査（4月）においても、下記のような結果が出ている。



上記の生徒の実態を踏まえ、今回の改定で新たに設定された領域である、即興で情報を交換したり、話したりする「話すこと [やりとり] [発表]」の力を身につけさせることや、小学校の外国語科において「書くこと」に慣れ親しんできたことを基に、話した内容や伝えたいことを正確な英語で書くことができる力を身につけさせる取組を行ってきた。

また、教科横断的な「伝統文化教育」を通じて、他教科で習得した情報や英語の知識・技能が、実際の英語でのコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現を繰り返すことで、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関連し合いながら育成されることが期待できると考えた。

①Program4 「リサイクル活動」

この単位では、週末に行うリサイクルデーが題材となっており、本校でも JRC 委員会がエコキャップ回収活動を行っているので、生徒の興味関心も高い話題であった。

本単元末に、自分たちが NPO の活動をする と 仮定し、どのような活動を行いたい か 考えさせ、それをポスターにして発表させた。始めに自由に下書きを書かせてみたが、何を書いているのか、どのような表現を使っているのか困っている生徒が多く見られた。また、「ポスター」を書くことを伝えてあったが、目的に合う適切な英語を使用できていない生徒も見られた。そこで、言語面・内容面の参考とさせるため、現 3 年生が 1 年生の時に書いた NPO ポスターや諸外国のエコ活動やリサイクル活動をモデルとして紹介した。それらのモデルと通して、言語活動の目的に応じて適切に言語を使用したり、既習の知識や経験を言語活動で活用したりすることで表現力を高めていくことができた。

最後に、NPO ポスターを 3 年生の教室前に掲示し、実際に参加してみたいものにコメントともに「いいね」のカードを貼ってもらう活動を行った。ポスターを書く前に、出来上がったものを 3 年生に選んでもらうことを伝えてあったので、憧れの 3 年生からできるだけ多くの「いいね」がもらえるように、意欲的に活動に取り組んでいた。

②My Project1 「自分のことを話そう」

この単位では、自己紹介を行う活動であるが、出身小学校が同じ生徒も多く、また、小学校でも自己紹介の活動は行っている。そこで、自己紹介をする自然な場面や状況を設定するために、本校の連携校であるスウェーデンのホーラベックス校から届いた自己紹介の手紙を見せて、それに対して返事を書く活動を行った。

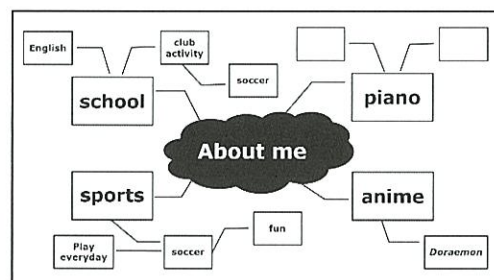
始めに、マインドマップで伝えたい情報を書き出し、それを基に、既習の語句や文を用いて即興で自己紹介を行った。自己紹介を聞いている班のメンバーは、スウェーデンの生徒になったつもりで友達の自己紹介を聞き、日本人である自分たちには当たり前だが、外国人に伝わる表現や内容であるかを相手の立場で考えさせた。

次に、諸外国の中学生の自己紹介文を読む活動を行った。それによって、様々な国の生活文化や学校生活の違いに気づくことができ、改めて何を伝えたいかなど内容や、どのような表現を使うか再考させた。

最後に、再考し、即興で行った自己紹介の内容を基に、自己紹介の手紙を書いた。全生徒の自己紹介は掲示し、事後の「読むこと」の活動へとつなげていった。

③Program8 「Origami」

この単位では、日本を代表する文化である折り紙を題材としており、生徒たちが日本の伝統的な遊びの楽しさに気づき、日本文化に対する関心を高めると同時に、それらを外国の人たちに伝



えることができるような機会にしていきたいと思った。

金沢大学の留学生に日本の伝統的な遊びやゲームを紹介するという課題を提示し、それに向けて各クラスで学習計画を立てた。進行状況によって、途中で見直しをしながら、生徒自ら立てた計画を基に主体的に学習を進めることができた。

まず初めに、個人で紹介したい遊びやゲームを考えさせ、マインドマップを基に、即興でペアやグループで対話をさせた。その対話を基に、グループで1つ留学生に紹介したい日本の伝統的な遊びやゲームを選び、伝える内容考えた。その際に、留学生がどのくらい日本にいるのか、日本語をどれくらい理解できるかなど、伝える相手のことを考えながら、紹介する内容を吟味していた。例えば、日本語を習い始めたばかりの留学生もいることを伝えたと、カルタやすごろくを選んだグループは「漢字は読めないから、ふりがなをふろう！」「ひらがなもわからないかもしれないから、ローマ字で書いたらどうだろうか。」など、相手へ配慮しながら、準備をしていた。

- 英語で話すのがすごく楽しかったです！外国人に英語で何かを伝えるのは、日本人に伝えるのとまた少し違って、上手に伝えられない部分があったけど、自分の使える英語を使って伝えられることができました。
- 日本のおもちゃを紹介するときなどは、外国人の目線になって紹介したり、実際にやってみたりすることが大事だということが分かりました。
- 今まで勉強したことを活かして伝えることができて、とてもよかった。これからも日本の伝統などに触れていきたいし、他の国の人に伝えたいなと感じた。
- 今回の活動で、英語が世界共通語だということを改めて感じました。日本を世界に伝えていくためには、英語が必要不可欠で、話したり遊んだりするにつれて、違う文化や言語の人同士でもコミュニケーションがとれることを学ぶことができました。
- 留学生にカルタのことを聞かれて、答えることができませんでした。やはり、何かを紹介するにはその物のことをとても詳しく知っている必要があると感じました。日本のものを知って楽しんでもらった時の喜びを学びました。これからもっと日本のものを知り、いろいろな人に紹介したいです。



以上の実践を通して、生徒たちは自分の伝えたいことを述べる時には、考えを整理したり、内容の構成を考えたり、相手に応じた表現を選んだりするなど、「目的や場面、状況など」に応じた英語を考えることで、「思考力、判断力、表現力」が付いてきていると感じた。また、題材として多くの伝統や文化を扱うことによって、日本や海外の伝統文化や生活習慣に関して興味を深め、海外のことを知り、日本のことを海外に発信していこうとする意欲が高まったと感じた。

それぞれの活動に、「書くこと」を入れてきた結果、4月のアンケート結果では「書くこと」が苦手、また、伸ばしたいと答えた生徒が一番多かったが、11月のアンケート結果では「書くこと」が一番伸びたと感じている生徒が多かった。今後も複数の領域を統合した言語活動に取り組み、表現する能力を高めてきたい。



課題として、マインドマップを用いて即興で自分の考えを伝える活動を行ってきた。その結果、マインドマップで自分の考えを整理し、それを基に、即興で話すことには慣れてきた。しかし、英

語の文構造においては正確性が低く、また、自分の伝えたいことが英語ではうまく伝えられないと感じている生徒が多く見られた。日本語と英語の語彙や文法の違いをしっかりと理解させ、文構造を正確に、適切に使用させるために、基礎基本の定着の必要があると感じた。

(2) 第2学年の成果と課題 (～7月)

伝統文化に関わり、かつ他教科と連携のある2つの授業を実践した。以下は、授業後の生徒の感想、生徒が書いた英文である。授業展開は、別紙の実践事例に記載してある。

① 実践事例 『外国人観光客とのインタビューで金沢の魅力をさらに伝えるには？』(6/7, 8)

総合的な学習の一環である「金沢フィールドワーク」で、外国人観光客に英語でインタビューをした。1週間後の英語の授業では、活動後のアンケートから特に困った3点をまとめて提示し、どう解決できたかを考えた。再度、外国人観光客とのやり取りをペアで行った。生徒たちはインタビューでうまくいかなかったことを内省し、より良いものになるように努めていた。また、フィールドワークで金沢の観光名所をめぐる体験から、金沢の魅力を伝えようとする姿勢が見られた。

<授業後の感想>

- 英語でインタビューの対話をもう一度行うことで、フィールドワークの出来事を再び思い出すことができ、新聞作りの促進にもつながりました。フィールドワークで実際にあった場面对話をやりとりしたので、外国人の役に熱心になりきることができました。いつか外国人と話す機会があれば、今回の授業を生かして、相手の心情を考えながら積極的に話すようにしたいです。
- フィールドワークでできなかったことをこの場で解決できてよかった。最初に英語を話せるか聞いたり、ここに行ったら良いと思うとすすめることができた。授業の最初は全然会話が続かなかったが、最後の方は時間いっぱい話すことができて良かった。また外国人とのインタビューの機会があれば試してみたい。
- (フィールドワークでは) 初めて自分から進んで観光客の方にインタビューができたので、とてもうれしかったです。対話のやり取りで相手から質問をされたりすることはよくあることだと思います。私たちの班も「写真を撮ってください」と外国の方に頼まれたりしました。そういう時には、聞き取れた単語をつなげてやり取りをすると良いと思います。
- いろいろな表現が使えたのでよかった。止まらずに会話を続けることができたので、日頃のODPの成果が出ていると思った。また外国人と話す機会があると思うので、積極的に話していこうと思う。
- 実際に外国人と生で話して学ぶことがたくさんありました。(今日の授業では) 相手が言ったことを繰り返したりする表現を学びました。今日対話をした時には、1つ1つの言葉に反応したり、相手の目を見ることができたと思います。
- 今日改めて対話をするので、実際のインタビューでダメだったところが分かりました。例えば、一方的に質問しただけで相手の答えや質問に相づちなどの反応ができなかったり、最後に気持ちよく終わることができなかったりなどです。今日の対話は、お互いに褒め合ったり驚いたり、たくさん反応して盛り上げることができたので良かったです。
- ★外国人からの質問→答え→少し解説→外国人への質問...というふうに、どんどん会話の幅を広げられたので良かったです。外国人への提案や金沢の名所についても言えました。いきなり質問されると戸惑うこともあったけど、自分の知識で答えることができました。ペアの人と順調に対話ができて、金沢の魅力も伝えることができたけど、やっぱり実際に(もう一度)やってみたいと思いました。

<上記(★)の生徒が対話後に書いた文>

A: フィールドワーク中の附中生 B: 外国人観光客

A: Could you answer some questions about yourself?	restaurant near here?
B: Sure.	A: Well... <u>Omicho market has many "kaisen-don" shop(s).</u>
A: Where are you from?	B: I just want to eat <u>sashimi</u> .
B: I'm from America.	A: And you can eat <u>"kimpaku soft cream" there.</u>
A: Oh, I see. Why did you come here?	<u>Kanazawa is very famous for Gold r(l)leaf.</u>
B: Because Kanazawa is a very good place.	B: I know! By the way, do you know about other good places?
A: Oh, thank you. Where did you go?	A: Yes!! <u>You should go (to) the 21st century museum. It is very interesting.</u>
B: I went to <u>Kenrokuen garden</u> .	B: OK. I'll go there tomorrow.
A: <u>Kenrokuen garden? That's nice! Kenrokuen is a very beautiful place. There are a lot of trees there. What are you going to do?</u>	A: Enjoy your trip. Bye!!
B: I'm going to eat lunch. Do you know a good	

* 網線: 事前に提示した語句 下線: 金沢の魅力の紹介文

生徒の感想から、波線部のように、フィールドワークと英語の授業を関連付けて学べたようである。また、下線部のように、実際に外国の方と話せてよかった、また話してみたいという意欲的な意見もみられた。昨年度（1 年次 4・12 月）の英語の学習アンケートで、「海外の人と会って会話をしたい」と答えた生徒が 8 割以下と低いのが課題だったが、台湾師範大学の留学生との交流（1 年次 2 月）や今回の英語でのインタビュー活動で、実際に外国の方と話して伝わった経験が自信になったようだ。

今年度 7 月上旬に実施した英検 IBA のアンケート結果からも、「英語の授業で取り組みたいこと」で最も多かったのが、「ICT を使った学習」（26%）と「英会話の練習」（19%）だった。また、「英語を使ったイベント（コンテスト、留学、イングリッシュキャンプ、海外の修学旅行など）を経験したことがない」という生徒が 72%いたが、「実際は経験したい」という生徒が 88%もいた。特に「留学」（35%）と「海外への修学旅行」（26%）を経験したいと答える生徒が多かった。生徒たちは、機会があれば外国の人との交流を望んでいることがわかる。今後は、生徒が「英語で伝えたい！」と心が動いた瞬間を大切に、外国の人と実際に交流する機会を定期的に設けていきたい。

② 実践事例 『落語と漫才を融合させたスキットを英語で演じよう！』（7/12）

日本の伝統的な「落語」と若者に人気の「漫才」を融合させた新しいスキット（対話）を創作した。落語のように自然な流れの中で話にオチを入れ、2 人ペアで身振りや表情を工夫して演じた。発表時間が 90 秒に達しないペアもあったが、ほとんどの生徒が原稿を見ずに発表できた。生徒たちは、他の生徒の発表を真剣に聞き、オチの場面で笑うこともあった。

<授業後の感想>

- ・どのペアも工夫していて、ジェスチャーなどがあって分かりやすかった。話のオチもとても面白かった。特に、途中で踊りを入れたりしているペアもあってすごいと思った。見ている人を楽しませるにはどうすればいいか、常に意識して、話を聞いている人を引き込む落語家などの人たちはさすがだと思った。
- ・たくさんジェスチャーを使うことができたし、抑揚をつけて話すことができた。発表を楽しく進めることができた。またやりたいと思った。仕事でお笑いをやっている人は、常に楽しそうにしているけど、本当はとても緊張しているだろうから、やっぱり本場の人はすごいなあと思いました。
- ・他の人たちのスキットを聞くと、みんなオチがあったり、役になりきっていてすごく面白かったです。自分の発表はそんなに面白いものではなかったので、もっと面白くできたかなと思います。次の My Project は、良かったペアを参考にして頑張ります。
- ・2 人でオチまで考えて、協力して練習してやりきれたので達成感がありました。私のペアはことわざがテーマのストーリーでした。どうジェスチャーを入れたらいいか、どこで工夫したらいいかなどを 2 人でじっくり考えることができて本当によかったです。私は前に出るのがあまり得意ではなかったけど、これを機会に踏み出すことができたので嬉しいです。ドキドキしましたが、役を演じて楽しめたのでよかったです。
- ・始める前は緊張でドキドキでした。一生懸命練習したからこその緊張でした。動きやイントネーションを頑張る上手くなりました。ここまで少しづらかったけど、頑張ってきてよかったです！すごく達成感がありました。
- ・それぞれの発表はとても面白くて工夫されているなと思いました。対話にジェスチャーをつけたり、表情豊かに対話しているところが印象的でした。私たちもジェスチャーを使い、表情豊かに発表できました。とても緊張したけど、やりきれてよかったです。
- ・パートナーの方を向いて、大きな声で話すことができました。途中言葉がつまってしまったけど、最後までストーリーの雰囲気を出せたのでよかったです。笑い（オチ）はあまり伝えることができなかったので、もっとジェスチャーを使えばよかったです。A さんの強弱のある話し方や B さんのような大胆な演技を参考にしたいです。

<生徒が考え発表した英文>

対話の場所【家の中】 時間【3 時頃】 登場人物【トム（猫）とジェリー（ネズミ）】

対話のオチ【トムが失くしたチーズをジェリーのせいにするが、ソファの下にある。探し疲れたトムが、ジェリーを食べようとする。】

Tom: Where's my cheese? Oh, Jelly? Jelly: Hey, Tom! What are you doing? Tom: I'm looking for my cheese. Did you see my cheese? Jelly: No, I didn't. Can I help you? Tom: Of course. But, don't eat my cheese. Jelly: Sure. Cheese... Tom: You really didn't eat my cheese? Jelly: Yes, yes. Please believe me. Tom: You ate my cheese! I'm angry! Jelly: No, no, no! Tom: Don't run away to your house. Jelly: Wait! Wait! We'll find the cheese together. Let's look one more time.	Tom: Come out or I'll break your house. Jelly: What!? Hey, calm down! Tom: Where's Jelly? Ha, ha! I found you. Jelly: Oh, my gosh. Do you have any evidence? Tom: Yes, I do. Because you are a mouse. Jelly: No, no, no! Wait! Ha!(気付く) Look over there! Tom: Is it under the sofa? Oh, my cheese. Jelly: Is that your cheese? Tom: Yes! Sorry, and thank you.(食べる) It's delicious. Jelly: I'm glad to hear that. Tom: <u>I'm tired. So I'm hungry. I see meat.</u> Jelly: <u>No! I'm Jelly. Don't eat me!</u>
---	---

*下線：話のオチ

生徒の感想から、波線部のように、スキットの内容をペアで話し合い練習する経験を通して、達成感があったという意見や、下線部のように、落語や漫才の文化に触れたことで学びがあったという意見もあった。今後は、発表についての感想を英語で話したり書くなどして振り返り、学びを広げていきたい。下の表は、学年全員が実施した英検 IBA（C テスト）の結果と半年間の推移である。半年間で英検 3 級以上の力のある生徒が増えた。また、リーディング（語彙・文法、長文読解）とリスニングの正答平均値もほぼ同じように伸びている。このことから、英文を読んで理解する力と同等に、聞いて理解する力も着実に身につけてきているといえる。

英検 IBA	4 級・5 級	3 級	準 2 級以上	リーディング平均	リスニング平均
2 年次 7 月実施	17.2%	44.6%	38.2%	422	413
1 年次 12 月実施	30.8%	57.0%	12.2%	397	389

(3) 第 3 学年の成果と課題

生徒たちは日々、授業の帯活動で行っている即興対話活動(Today's Free Talk, Ping Pong Discussion)で、与えられたトピックについて、ペアで 90 秒間、英語でやり取りすることで、相手を意識し、相手に合わせた対話の仕方などを確実に身に付け、多くの生徒が話す力・やり取りする力が付いていることを実感している。またプレゼンテーションなどの発表をすることが好きだと感じている生徒も多く、「前回の発表よりも表現や内容をよくしたい」「相手に共感してもらいたい」と、質の向上にも努めており、意欲も高い。以下は 4 月と 12 月に行ったアンケート結果である。
(A:あてはまる B:どちらかというにあてはまる C:どちらかというにあてはまらない D:あてはまらない)

1. 即興対話活動や Talk & Talk など、英語で対話する力が身に付いた。	
< 4 月時点 > A : 34% B : 53% C : 10% D : 3 %	
< 12 月時点 > A : 57% B : 36% C : 6 % D : 1 %	
2. 相手が話すことに対して、適切に英語で質問することができる。	
< 4 月時点 > A : 17% B : 55% C : 24% D : 4 %	
< 12 月時点 > A : 29% B : 50% C : 19% D : 2 %	
A : 28% B : 54% C : 14% D : 4 %	
3. 自分の気持ちや考えを、英語でうまく人に伝えることができる。	
< 4 月時点 > A : 15% B : 50% C : 31% D : 4 %	
< 12 月時点 > A : 16% B : 55% C : 27% D : 3 %	
4. 理由をはっきりと明確しながら、自分の考えを英語で書いたり話したりすることができる。	
< 4 月時点 > A : 17% B : 53% C : 24% D : 6 %	
< 12 月時点 > A : 18% B : 55% C : 24% D : 3 %	
5. 英語を読んで、相手にその内容を要約して、英語で伝えることができる。	
< 4 月時点 > A : 12% B : 41% C : 39% D : 8 %	
< 12 月時点 > A : 14% B : 45% C : 36% D : 5 %	

①Program 2 「日本の世界遺産を Jim 先生にプレゼンテーションしよう。」

＜世界遺産プレゼンテーションの振り返り＞

自分の利便は、敵の軍事に利用されないために、他人の非に上手に突くことを使っていて知悉にしていたと聞いた。また、情報屋が、お世話を焼く、その人に他人に不利な事をするとは、お世話を焼く情報を盛り込んで説明しようと思った。お世話を焼くとは、上手にやった。

人になつて、直前に文を教へては、記憶が定かでない。他方、この處に所を耳から
覚えておける。物語は定かになつて、それ以後は入札する。何れが、定か
に定かになつた。世界遺産の定かした。単語は、定かした。定かした。定かした。
単語の単語は、定かした。定かした。定かした。

原稿を作成時に、次のような個人の表現は出来たが、その中には、
もろいもの、少しアリアテなところ、声のトナリを意図的に誇張し、自然
に、読者の心へ、感動的な印象を与えることが出来た。

＜日本の伝統文化プレゼンテーションの振り返り＞

「百人一首」について、プレゼンをするとき、外国の人はどこまで知っているか（かるたとは何か、「平安」時代、人物名など）を
 考え、どこまで補足説明が必要かを考えるのが少し難しかった。
 しかし、写真を見せながら、アドリブも入れたことで、
 じつわりとプレゼンできたので良かった。

どんな情報があるに興味をもってやる人、どんな言い方を
すると聞いてもらえるかなと、自分の夢をうまく相手の立場に
よって考えることが出来るようになった。ためうよかった。

自分の使っている表現や上手な英語にできるかなと少し難しかった。
日本語では簡単な文でも、英語では意外と覚えがたい。1、2年
生では考えているけれど「みんなに伝える力がある表現を探る」ということ
が、まだ難しい。成長していきたい!!

自分たちの国の文化なのに意外と知らないところが多く驚いた。また、日本独自のものが
多いので英語でどう表せば外国人に伝わるのかを考えた。プレゼンするのはとても
難しかった。

自分の英語はまだ全然だめだと思ったり、ちゃんと外国の方々と話す機会を作
ていきたいと思った。でも、自分が伝えたいと思うことを英語にして、しっかり伝える
ことができたと思う。

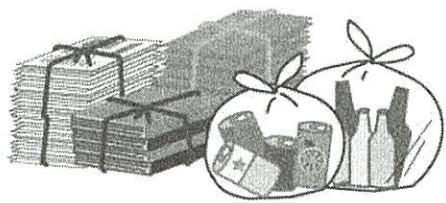
日本の文化を紹介したことにより、そのことが英語が表現
できるようになったことは勿論のこと、それに関する知識
も再構築できたという機会になった。よかった。

<伝統文化についてのアンケート>

(A: あてはまる B: どちらかというあてはまる C: どちらかというあてはまらない D: あてはまらない)

- | | | | | |
|---|--------|--------|--------|--------|
| 1. 日本の伝統や文化について興味・関心がある。 | | | | |
| <4月時点> | A: 28% | B: 44% | C: 19% | D: 9% |
| <12月時点> | A: 44% | B: 43% | C: 9% | D: 4% |
| 2. 外国の伝統や文化について興味・関心がある。 | | | | |
| <4月時点> | A: 35% | B: 40% | C: 17% | D: 8% |
| <12月時点> | A: 56% | B: 33% | C: 7% | D: 4% |
| 3. 日本の伝統や文化について勉強する(知る・体験する・伝える)ことは大切である。 | | | | |
| <4月時点> | A: 48% | B: 43% | C: 6% | D: 3% |
| <12月時点> | A: 66% | B: 29% | C: 4% | D: 1% |
| 4. 日本の伝統や文化を英語で説明したり、外国人に伝えることができる。 | | | | |
| <4月時点> | A: 5% | B: 22% | C: 44% | D: 29% |
| <12月時点> | A: 13% | B: 54% | C: 30% | D: 3% |

日々の活動や授業実践を通して、生徒たちは英語の文法や語彙、表現などの習得はもちろんのこと、他教科から学んだことや得た知識を基に、対話や発表内容の充実を図ることができるようになった。「高校生になったら、英語を使ってどんなことがしてみたいか」という質問には、多くの生徒が、「実際に外国人と話す機会を多く持ちたい。」「海外の友達を作りたい。」「同世代の外国人とディスカッションがしたい。」と答えている。実践的な場面の設定や議論する力の育成をさらに図り、高校英語へとつなげていきたい。

授業者 上野 郁子		授業日 6 月 7 日(金)
授業クラス	1 年 1 ～ 4 組	関係・連携の考えられる教科等 社会
授業内容 - 教科書のリサイクル活動の内容を復習する。 - 本時の課題を提示する。 「Let's think your NPO and make a poster!」 - ポスター（活動）の下書きをする。 - グループでシェアをして、よりよいポスターのアイディア（内容・表現）をもらう。		
教科等で身に付けたい力 - 読み手が理解しやすいように、工夫してポスターを書くことができる。 【外国語表現の能力】		育成したい資質・能力 ②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度
授業のポイント・流れ - Greeting - 本日の当番が元気に英語であいさつをする。 - Warm Up - BINGO - 即興対話活動 - 教科書のリサイクル活動の内容を復習する。 「ビン、新聞、本、雑誌などを公園に持っていく。」「ペットボトルキャップの収集」 - 諸外国（ドイツ、デンマーク、トンガ、ケニア）のリサイクル事情を知る。 - JRCの行っている活動（エコキャップ、ベルマーク）の目的を確認する。 - NPOとは何か、どんなNPOがあるかを知る。 - 本時の課題を提示する。「Let's think your NPO and make a poster!」 - 実際あるいくつかのNPOを知り、ポスターに必要な情報は何かを考える。 - 現3年生が1年生の時に作ったポスターを見て、参考にする。 - ポスターの下書きをする。 - 示したNPOや先輩のモデルを参考に、オリジナルの活動を考える。 - ある程度下書きができたなら、班でそれぞれの書いたものをシェアする。 - 友達の内容や表現を参考に、ポスターの内容を考え直す。 (次時) - ポスターの清書をする。 - 班で発表をする。 - ベストポスターを選び、クラスで発表をする。 ※全生徒のポスターを掲示し、参加してみたい活動に一票を張る。  		

授業者 上野 郁子		授業日 6 月 14 日(木)
授業クラス	1 年 1 ～ 4 組	関係・連携の考えられる教科等 家庭・保健体育
授業内容 ・ブレインストーミングをして、メモを見ながら自己紹介をする。 ・諸外国の自己紹介文を読み、伝える内容や使う表現を知る。 ・自己紹介スピーチを再考し、グループで発表をする。		
教科等で身に付けたい力 ・聞き手が知りたいと思う情報を入れ、工夫して、メモを見ながら話すことができる。 【外国語表現の能力】		育成したい資質・能力 ②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度
授業のポイント・流れ 1. Greeting ・本日の当番が元気に英語であいさつをする。 2. Warm Up ・BINGO ・即興対話活動 3. 本時の課題を知る。 ・スウェーデンの学校から自己紹介の手紙が届いていて、それに返事を書くことを知る。 ・自己紹介をするときにはどんな情報が必要かペアで話合う。 ・ブレインストーミングをして、自己紹介に必要な情報を個人で出す。 4. メモを見ながら自己紹介をする。(ペア活動) ・ブレインストーミングで出たキーワードを基に、即興で自己紹介をする。 ・ペアで発表し合い、内容や表現などの学び合いを行う。 5. 諸外国の自己紹介文を読む。 ・諸外国の自己紹介文を読んで、学校生活や生活習慣の相違を知る。 ・諸外国の自己紹介文を参考に、伝える内容や使える表現を再度考える。 6. 再考したメモを見ながら自己紹介をする。(グループ活動) ・発表順番を決め、次の発表者が司会進行を行い、発表をする。 ・自己紹介に対して、スウェーデンの生徒になったつもりで、1人1つ質問をする。 ・グループからの意見や質問を参考に、相手が知りたい情報を入れたり、表現を改善したりするなどの工夫をして、よりよい自己紹介スピーチを考える。		

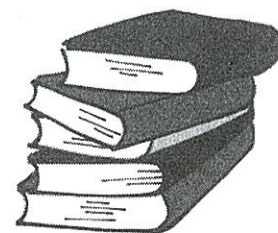


実践事例

英語 1 年

授業者 上野 郁子		授業日 10 月 25 日(木)
授業クラス	1 年 1 ～ 4 組	関係・連携の考えられる教科等 家庭・理科・国語・社会
授業内容 ・日本語を学んでいる留学生に日本の遊びを英語で紹介する。		
教科等で身に付けたい力 ・聞き手が理解しやすいように、工夫して日本の遊びを英語で紹介することができる。 【外国語表現の能力】		育成したい資質・能力 ②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度
授業のポイント・流れ  - Greeting (2 分) - 本日の当番が元気に英語であいさつをする。 - Warm Up (8 分) - 男子 1 名、女子 1 名がそれぞれ自分の好きな物や人について、絵や写真を見せながら英語で紹介をする。 - スピーチが終わったら、それに対して英語で簡単な質疑応答を行う。 - グループ分けをする。(5 分) - 英語係が英語で簡単なあいさつをする。 - 留学生に数字のカードを引いてもらい、その番号の班に入ってもらう。 - 活動前に各自簡単に自己紹介をする。 - 日本の遊びを留学生に紹介する。(30 分) - 生徒の進行で、それぞれが準備した日本の遊びを英語で紹介する。 - 各班約 10 分程度で紹介し、時間があれば一緒に留学生とやってみる。 - 時間が来たら、留学生に次の班へ移動してもらう。 - 時間があれば、留学生の国の遊びなどを紹介してもらう。 - まとめ (5 分) - 英語係が終わりの言葉を述べる。 - 留学生は英語係の引率で、控室へ戻る。 - 生徒は本時の活動の振り返りを書く。 		

授業者 上野 郁子		授業日 11 月 23 日(金)
授業クラス	1 年 4 組	関係・連携の考えられる教科等 国語
授業内容		
Jim先生 (ALT) の娘さんに、お勧めの本を紹介する。		
教科等で身に付けたい力(本時について)		育成したい資質・能力
・簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話することができる。【外国語表現の能力】 ・積極的にお勧めの本を紹介しようとしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】		②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度
授業のポイント・流れ		
1. あいさつ (2分)		
・本日の当番が元気に英語であいさつをする。 ・英語で今日の日付や天気など尋ねるやり取りを生徒同士で行う。		
2. 帯学習 (5分)		
・男子一名、女子一名がそれぞれ自分の好きな物や人について、絵や写真を見せながら英語で紹介をする。 ・スピーチが終わったら、それに対して英語で簡単な質疑応答を行う。 ・質問に答えるときは二文で答え、また、質問者に対して一文尋ねる。		
3. 本時の課題を確認 (3分)		
・ALTからのビデオメッセージを見て、本時の学習の目的を確認する。 ・伝える相手の情報を知り、紹介する際に参考にする。		
課題 Jim先生 (ALT) の娘さんに、お勧めの本を紹介しよう。		
4. ペアでお勧めの本紹介 (20分)		
・前時に調べたお勧めの本の内容や情報を基にマインドマップを作る。 ・マインドマップを基に、即興で伝え合う。 ・教師のお勧め本の紹介モデルを見て、内容や表現を参考にする。 ・マインドマップに必要な情報を加え、それを基に、再度即興で伝え合う。		
5. お勧めの本紹介の発表 (17分)		
・班でお互いのお勧めの本を紹介し合う。 ・班の中でよいと思うものを一人選ぶ。 ・全体で発表する。		
6. 授業の振り返り (3分)		
・本時の学習をEnglish Learning Journalで振り返る。		



実践事例

英語2年

授業者 田中 里美		授業日 6 月 7 日(木) 8 日(金)
授業クラス	2 年 1 ～ 4 組	関係・連携の考えられる教科等 総合
授業内容		
・「金沢フィールドワーク」の英語でのインタビューを思い出し、外国人観光客と英語でやり取りをさらに発展させる。		
教科等で身に付けたい力（本時について）		育成したい資質・能力
外国人観光客とのインタビューを通して、金沢の魅力をさらに英語で発信することができる。【外国語表現の能力】		1文化の伝承・創造への主体性など
授業のポイント・流れ		
<前時の授業まで> 英語でのインタビュー方法を学び、「金沢フィールドワーク」当日を迎える。フィールドワーク後のアンケートで、外国人観光客とのインタビューの実態をまとめておく。		
①帯活動：1分間の即興対話（ODP）（3分） 『How was the Kanazawa fieldwork?』		
②先週の「金沢フィールドワーク」に関連して、5つのチェックポイントの特徴や最近の金沢の外国人観光客についてのデータを提示しながら、生徒と英語でやり取りをする。（6分） ・昨年度、金沢に宿泊した外国人数(256, 092人) ・外国人の出身国ランキング（1位台湾，2位アメリカ，3位中国）		
③チェックポイントでの外国人観光客とのインタビューについて話す。（4分） ・英語でインタビューできた班 95%（42%が3人以上の外国人とインタビュー） 課題：外国人観光客とのインタビューで金沢の魅力をさらに伝えるには？ ・場面設定		
A:金沢フィールドワーク中の附属中学生 B:金沢にいる外国人観光客 場所：各チェックポイント 時間：午後		
④ “Could you answer some questions about yourself?” から始め、ペアで90秒間、役割を代えて交互にインタビューの対話を行う。（4分）		
⑤ フィールドワークで用いた資料や金沢市内の英語の地図（2人1枚）を、活用してもよいことを伝える。（1分）		
⑥ インタビューで困ったことがなかったかを問いかけ、事前の生徒アンケートの結果を提示し、実際のインタビューで困ったことを共有する。（2分）		
⑦ 主にあげられた3つの状況（①一度で英語を聞き取れない ②相手が英語を話す人かわからない ③相手から金沢について逆に質問された）について、どう対応すればよかったかを話し合う。（2分）		
⑧ 困った状況（③）を想定した対話を2分間行う。2人で1台のICレコーダーを使い、役割を固定して対話を録音する。（1回目）（3分）		
⑨ 1組のペアが、その場で立って対話を発表する。（2分）		
⑩ JTEとALTのモデル対話をビデオで視聴し、対話のやり取りを参考にする。（3分）		
⑪ 2人で1台のICレコーダーを使い、役割を固定したまま2分間の対話を再度行い、録音する。（2回目）（3分）		
⑫ 2組のペアが、教室の前に出て対話を発表する。（5分）		
⑬ 発話した対話や他の対話をもとに、各自がより良い対話文をワークシートに書く。金沢の魅力がより伝わるように対話文を考えて書く。（10分）		
⑭ 今日の授業を振り返り、できるようになったことと感想を書く。（1分）		

実践事例

英語 2 年

授業者 田中 里美		授業日 7 月 12 日(木)
授業クラス	2 年 1 ～ 4 組	関係・連携の考えられる教科等 国語
授業内容		
・ 2つの単元をもとにした発表活動 My Project 4 スキット作りを楽しもう Program 4 Eigo Rakugo ・ 落語と漫才を融合させた90秒以上の対話（スキット）を創造し、2人で演じる。		
教科等で身に付けたい力（本時について）		育成したい資質・能力
話にオチがあり、かつ自然な対話（スキット）を2人で考え、90秒以上の長さで英語の音やリズムに気をつけて演じることができる。【外国語表現の能力】		③文化の伝承・創造への主体性など
授業のポイント・流れ		
<前時の授業まで> ・ 英語での対話のつながりやバリエーションからスキット作りの土台を学ぶ。（1時間） ・ 古典落語の2つの小話を英語で読み、落語の特徴を学ぶ。（2時間） ・ 日本にとどまらず、世界にも広まりつつある英語落語の今を、映像を通して知る。（1時間） ・ テレビでよく見る日本の漫才をイメージしながら、話にオチを入れた対話（スキット）をペア（男女）で考えて練習する。（2時間） （毎時間行っている帯活動は、本時は省略する） ①発表時の注意点や評価の観点を最終確認する。発表中は、他のペアの発表を3つの観点と5点満点で審査することを伝え、評価シートを配布する。（2分） ②課題の確認（1分） 課題：落語と漫才を融合させたスキットを英語で演じよう！ 1スキットの発表前に、パートナーと最終調整や打ち合わせをする。（4分） ④座席順にスキットを発表する。（38分）<ビデオ撮影> ⑤すべての発表が終わった後に、感じたことを日本語でまとめて書く。（3分） ⑥自分たちの発表や良いと思ったスキットについて感想を述べる。（2分）		
発表の評価基準（評価基準は1カ月以上前に生徒に伝えておく）		
5 点	ペアで90秒間、3秒以上間を空けずに、英語らしい発音とリズムで、聞いている人を意識してわかりやすくオチのある（面白い）10回以上のやりとりのある対話を演じることができる	
4 点	ペアで90秒間、3秒以上間を空けずに、英語らしいリズムで、聞いている人を意識してオチのある（面白い）10回以上のやりとりのある対話を演じることができる	
3 点	ペアで90秒間、5秒以上間を空けずに、英語らしいリズムで、聞いている人を意識してオチのある10回以上のやりとりのある対話を演じることができる	
2 点	ペアで1分間以上、5秒以上間を空けずに、リズムや場面が少し不自然なところがあるが、8回以上のやりとりのある対話を演じることができる	
1 点	ペアで1分間程度、リズムや場面が不自然なところがあるが、5秒以上間を空けてなら対話をするができる	
0 点	発表をすることができなかった	

実践事例

英語 3 年

授業者 渡村 のりこ		授業日 6 月 11・13 日（月・水）
授業クラス	3 年 1 ～ 4 組	関係・連携の考えられる教科等 社会・総合
授業内容 ・日本の世界遺産の中から，グループで1つ選び，Jim先生に行ってみたいと思ってもらえるプレゼンテーションをする。		
教科等で身に付けたい力（本時について） ・聞き手を意識して，充実した内容のプレゼンテーションをすることができる。 【外国語表現の能力】		育成したい資質・能力 ① 日本の伝統や文化に関する理解
授業のポイント・流れ <前時までの流れ> 1. 本文を読んで，日本の世界遺産（原爆ドーム・知床・日光）についての説明文の組み立て方を理解する。 2. 自分が選んだ世界遺産について，知っていることを5文程度で書く。 3. 海外の人がぜひ訪れてみたいと思えるようなプレゼンテーションをするため，タブレット端末を使って情報を収集し，紹介文がよりよくなるように英文を作成する。 4. タブレット端末で写真を提示しながら，個人の発表をグループで行う。 5. 同じ世界遺産を選んだ4人のグループを再結成し，協働で紹介文を1つ作成する。 6. プレゼンテーションに向け，役割分担を決め，タブレット端末を使って，練習する。 <本時の流れ> 1. あいさつの後，グループに分かれて，プレゼンテーションの打ち合わせ，練習する。（5分） 2. 世界遺産を紹介するプレゼンテーションを行う。（40分） ・1グループ約3分のプレゼンテーションをする。 ・Jim先生が2，3の質問をする。 ・聞いている生徒は，良い表現や印象に残った点などをワークシートに記入しながら，聞く。 3. まとめをする。（5分） ・プレゼンの中から，Jim先生に行ってみたくなった日本の世界遺産ベスト3を発表する。 ・活動全体を通しての振り返りを，ワークシートに書く。		
 		

実践事例

英語 3 年

授業者 渡村 のりこ		授業日 1 1 月 2 3 日 (金)
授業クラス	3 年 2 組	関係・連携の考えられる教科等 社会・家庭・総合
授業内容 ・日本の伝統や文化に対し、さらに興味をもってもらえるように、その魅力を伝える英文を書く。		
教科等で身に付けたい力（本時について） ・聞き手を意識して、充実した内容の紹介文を書くことができる。【外国語表現の能力】		育成したい資質・能力 ③文化の伝承・創造への主体性など
授業のポイント・流れ 1. 本時の課題（5分）：インタラクションと課題の確認 ・自分が伝えたいと思う日本の伝統や文化、行事のPR動画撮影が最終ゴールであることを再確認する。 ・7月に交流した金沢大学の留学生にも視聴してもらうことを知り、相手意識を持ち、課題に対する意識を高める。 課題 日本の伝統や文化のさらなる魅力を英語で伝えよう。 2. ペアで紹介（10分） ・前時に調べて作成したスピーチメモをもとに、ペアで対話する。 ・対話して気付いたことやわからなかった表現などをスピーチメモに加える。 3. グループで紹介（10分） ・発表者は相手に魅力が伝わるように話す。聞き手は、良いと思う表現や参考にしたい表現、自分にはなかった視点などメモをとる。 ・必要に応じて、質問やアドバイスをする。 4. モデル文を読む（3分） ・教師が書いた紹介文を参考に、必要に応じてスピーチメモに加える。 5. 紹介文の作成（10分） ・ペアやグループでの対話とスピーチメモを基に、10文程度の紹介文を書く。 6. 全体での共有：代表者の発表と教師のフィードバック（10分） ・スピーチの良かった点、改善点を共有する。 ・次時はビデオ撮影を行うことを確認する。 7. 授業の振り返り（2分） ・English Learning Journal を記入		

